

トルコ共和国  
鉦山開発  
基礎調査団報告書

2001年4月

国際協力事業団

## 序 文

トルコ共和国は、様々な鉱物資源を胚胎する地質環境を有しており、1935年に設立された鉱物資源調査・探査総局（MTA）が中心となって積極的に鉱床探査が行われてきました。その結果、MTAによると、同国の非鉄金属資源についてはこれまでに露頭鉱床はほぼ開発されつくしており、今後は広域的な地形・地質情報に基づき、鉱床成因を踏まえた潜頭鉱床探査を進める必要があるとされています。

一方、MTAは効率的な地形・地質情報の入手のため、1975年リモートセンシング部門を設立してアナログ画像判読を開始し、その後も、UNDPの機材供与や自らの予算による設備増強により、同部門の強化に努めています。

しかしながら、MTAが現有するリモートセンシング技術及び設備は、潜頭鉱床探査のためのより広域的な画像解析やより高度なデータ処理を行うには、技術・処理能力などの面から十分とはいえ、中長期的な資源確保の基礎となる効率的な探査活動の実行が懸念されています。また、MTAは自然災害や鉱業分野での環境保全に関する基礎研究も行っていますが、近年は活断層調査や地形変化モニタリングにもリモートセンシングを利用しており、これらの分野の解析技術の高度化も課題となっています。ところが、リモートセンシング技術は今なお急速に進歩し続けており、もはやMTAが独力で技術・機器性能を向上させ、最近の技術水準を追うことは困難な状況となっています。

かかる背景の下、トルコ共和国政府は、先進的なリモートセンシング技術及びそれに必要な設備を導入することにより、より効率的に地質・地形情報等の調査を行うことを目的とするプロジェクト方式技術協力（「画像デジタル処理センター」（仮称）プロジェクト）を我が国政府に対して要請してきました。

これを受け、我が国政府は、トルコ共和国の鉱業政策や鉱業セクターの現状・課題を調査し、「画像デジタル処理センター」（仮称）プロジェクトの実施妥当性を確認するとともに、実施機関となるMTAの組織体制等、短期調査での基本計画策定に必要な情報を収集するために、基礎調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団の調査結果を取りまとめたものです。

ここに本調査団の派遣に関し、ご協力いただいた日本・トルコ両国の関係各位に対し、深甚の謝意を表するとともに、あわせて今後のご支援をお願いする次第です。

2001 年 4 月

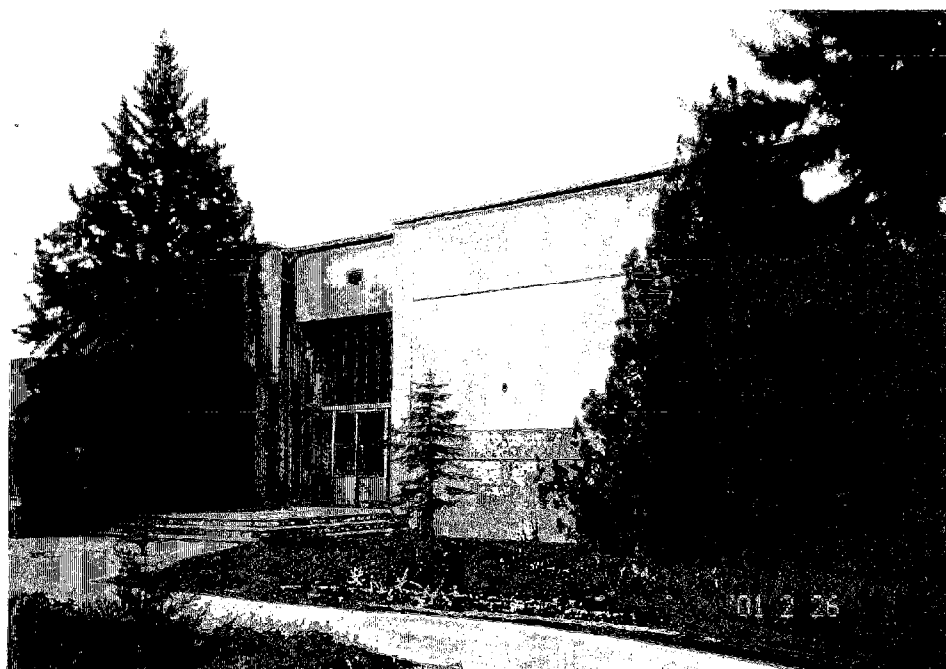
国際協力事業団

鉦工業開発協力部

部長 林 典 伸



協議議事録交換



リモートセンシング 課が移転する予定の建屋

# 目 次

序 文

写 真

第 1 章 基礎調査団の派遣 .....	1
1 . 対象国選定の経緯 .....	1
2 . 要請の内容及び背景 .....	1
3 . 調査目的 .....	1
4 . 調査団構成 .....	2
5 . 調査日程 .....	2
6 . 主要面談者リスト .....	3
第 2 章 調査・協議結果 .....	5
1 . 調査・協議結果概要 .....	5
2 . 事業実施の背景 .....	25
3 . MTA の現状と課題 .....	47
4 . プロジェクトの基本計画 .....	69
5 . プロジェクトの必要性・妥当性 .....	74
第 3 章 調査団所見 .....	76
付属資料	
1 . 協議議事録 ( Minutes of Meeting ) .....	81
2 . 要請書 .....	89